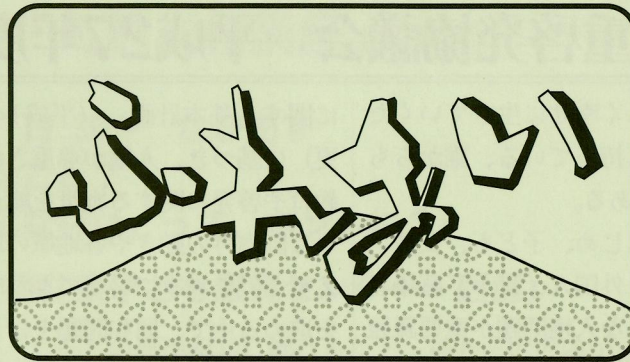


いろんな人と人とのつながり、
ふれあいを美浜のMと波で
イメージしました。



美浜町人権尊重啓発協議会会報

第56号

発行:平成27年7月23日
(年3回発行)

編集:人権協広報部
連絡先:美浜町生涯学習課

TEL 32-1212

FAX 32-1222

E-mail:jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp

「差別と戦争をなくすために」

上記をテーマに、劇団「俳優座」劇団員の有馬理恵さんに一人芝居と語りで公演していただきました。

まず演じて下さったのは、一人芝居『しゃかないひつぎうた釈迦内枢唄』(水上)作)。秋田県にある釈迦内村で祖父の代から続いた火葬場の仕事を引き継ぐ女性の生き様を描いた物語なのですが、そこに描かれた差別は、職業差別だけでなく、民族差別・同和問題・女性差別と多岐にわたります。それを迫真の演技で伝えて下さったことで、私たちの心に強く響き、どんどん引き込まれていきました。一人芝居の後は、有馬さんの経験された差別の話や戦争についてのお話を聞かせて下さいました。

第1回町民人権講座(6/24・なびあす)
有馬理恵さん



終始語られていたのは、「人としての尊厳」でした。憲法13条には「すべて国民は、個人として尊重される」とあり、また14条には「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」とあります。しかしながら、社会的弱者への攻撃《差別》は、まだまだなくなっていないと言わざるを得ません。

人間の自由と尊厳の実現のためにわたしたちができることは何かを改めて考えさせられた今回の公演でした。

参加者の声

「閉められたとびらをこじあけて、自分の真情を伝える」すごく勇気のいることですね。有馬さんの熱に感じて、さて有馬さんの一人芝居は私の人生に関わるのでしょうか。美浜の劇場に在った一人の私は、そこに居た一人として、何か変わりたい、変えて生きていきたいと考えています。

息子(小学校5年生)が、最近のニュースやテレビの特集を見て、日本がまた戦争になるのではないかと毎日のように心配しています。戦争・差別のない世の中、本当に願っています。

パワフルで思わず引き込まれ、時間の経つのがあっという間でした。私も部落差別により結婚を反対された一人です。でも最後には許してもらえましたが、今でも差別はなかなかなくなりません。身近な所から、自分でも出来ることをしていかなければと強く感じました。

美浜町人権尊重啓発協議会 平成27年度基本方針

人権とは、一人ひとりが人間らしく幸せに生きていくための権利で、誰もが生まれながらに持っている、誰からも侵されることのない基本的な権利である。

わが国においては、同和問題をはじめ、子ども、女性、高齢者、障がい者、アイヌの人々、外国人、HIV感染者やハンセン病回復者等をめぐる様々な人権問題が重要課題となっている。また、犯罪被害者及びその家族の人権問題、インターネット上の掲示板などに見られる人権問題、環境問題に関わる人権問題等も生じている。特に、最近では、人権の基本である命を軽視するような諸問題が、家族間をはじめとして頻発しており、正に憂慮される事態となっている。これらの状況をふまえ、人権尊重の取組みの継続的かつ積極的な推進が必要となっている。

美浜町においては、地域改善対策事業等の施策によって格差が改善され、同和問題に関する差別意識は解消に向けて着実に進んでいる。その成果を受けて平成14年2月16日に『美浜町地域改善対策事業終結記念大会』を行い、いわゆる「ハード面の事業」の終結を宣言した。現在においては、「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律(人権教育・啓発推進法)」(平成12年12月)及び「人権教育・啓発

に関する基本計画」(平成14年3月/平成23年4月一部変更)に基づき、人権が尊重される社会の実現に向け、人権教育や啓発に関する施策を総合的に推進している。このような国内外の動きや各地域の取組み、美浜町の現状を踏まえると、これまで培ってきた成果を土台にして地域づくりを進める中で、同和問題をはじめとした様々な人権に関わる課題を解決することは私たち町民の重要な責務である。

美浜町人権尊重啓発協議会(以下「人権協」という)は、町民一人ひとりが、自分の人権だけではなく周囲の人たちの人権についても正しい認識を持ち、互いの人権を尊重し合うことのできる社会の実現を目指し活動する。

そのために、家庭・地域社会などのあらゆる場を通じて、身近なところから人権について考える機会を提供するとともに、人権協の活動を広く町民に知らせ、町民一人ひとりの人権意識の向上を図るための諸施策を実施する。

また、「美浜町人権教育研究会」(略称・人権研)を中心とする保育や学校教育と、人権協を軸とした社会教育との連携も一層深め、平成24年12月に改定された生涯学習推進プランの趣旨を踏まえ、学社一体となった人権教育・啓発の更なる推進に努めていきたい。

「人権のまち・美浜をめざして」 人権協・部会紹介 (全7部会)

会 長 一瀬繁紘
副会長 崎元良栄・河合政志・竹仲敏春

人権擁護・啓発 部会

田中孝治 木野 隆 瀬戸美知子 中川利夫
山本まゆみ 知場富雄 塚本宗寿
渡辺理佳 武田 晋

夏フェス(花火大会)や人権週間中に啓発活動を行います。推進委員相互の交流や研修を行います。

広報 部会

竹本三代一 真田邦彦 宇都宮 貴
山野泰孝 西野泰弘
大道翔一 竹内正雄 中島範子

年3回広報「ふれあい」を発行し、人権に関する情報や人権協などの活動に関する情報を提供します。

啓発資料・人権協コーナー 部会

高橋一男 森井みどり 福嶋智恵美
戸羽 豊 池田直美 木下満寿美
真田志音 和多田康宏 武田美和子

身近に人権について考えていただけるような啓発資料「ふれあい」を発行します。人権週間中に、人権協コーナーを開設します。

作品公募・意識調査 部会

森本 哲 山口有一 富田享幸 河本 猛
三好万里子 藤田大輔 志賀大輔

人権作品(短い手紙・絵・ポスター・写真)の公募を行い、入賞作品は人権作品集「ふれあい」として発行します。意識調査について検討していきます。

町民人権講座 部会

森本克行 堀川ふじ子 高木賢治
武藤涼子 佐々木完裕 四ッ橋政和
野原佐智夫 加茂知之 浜野裕介 荒木祐作

年間6回の講座を開設し、広く町民に人権に関わる学習機会を提供します。(P3をご覧ください)

推進団体学習 部会

大塩友之 兵庫賢一 松田うめ子
畠中治男 渡辺順一 寺田真一
青池美里 中瀬豪規 大同 厚

集落・企業・団体等の自主的な学習機会の開催を支援します。

人権のつどい 部会

木子雅之 加藤美千代 中嶋さき子
松田賢一 玉井なおみ
武田奈々 納谷ふくみ 山本由加

人権週間の意義を踏まえ、12/5(土)に「人権のつどい2015」を開催します。

あなたのための「町民人権講座」(予定)

第2回 8月7日(金) 19:30～ なびあす

『「ふつう」ってどんなこと？

「みんなちがって、みんないい」って、ホントに？』

講師：^{つだあけみ}津田明美 さん (福井県子ども療育センター・医師)

県内各地において就学前の子どもたちの発達相談に携わるなど、福井県内の障がい児の相談・指導と療育に尽力している。また、福井市特別支援教育専門委員会委員なども務め、就学後の子どもについても、医療の立場からできることを精力的に発信している。お母さんが元気になること、その子自身を認めることを大切に、日々の診療にあたっている。



第3回 9月12日(土) ①14:00～ ②19:00～ なびあす

映画『60万回のトライ』 (監督：朴思柔、朴敦史)

〈上映時間：約106分〉

大阪生まれ、大阪育ち。見た目は日本人と変わらない。そんな彼らが通うのは大阪朝鮮高級学校。

高校ラグビーの激戦地で強豪校の仲間入りを果たし、日本一を目指して闘っている彼らの胸には、いったいどんな想いがあるのか？J-POPも、K-POPも、朝鮮の大衆歌謡もこよなく愛する、いまどきの彼らの素顔を描いた青春ドキュメンタリー映画。

第6回 11月17日(火) 19:30～ なびあす

『カミングインという生き方(仮)』

講師：^{よしいなな}吉井奈々 さん (コミュニケーション講師)

元男性でありながら、女性として【中学時代の同級生と結婚】をして「普通の女性の幸せ」を手に入れる。

現在は筑波大学や早稲田大学を始めとする、数々の有名大学での講義や、有名企業の社員研修にて教鞭をとる。毎年多くの生徒から人気を集め、「また来年も聞きたい講義No.1」に選ばれる。



※「第4回」は9月下旬～10月上旬、「第5回」は10月下旬を予定しています。
詳細が決まりしだい、講座・HP等で紹介していきます。

〈人権コラム〉 戦争と平和と人権

人権とは、「一人ひとりの人が人らしく幸せに生きていくための権利」です。だれもが生まれながらにして持っている、誰からも侵されることのない基本的な権利です。そして、この権利を社会全体で守り、尊重することによって、より多くの人々が、幸せに平和に、そして自由に暮らせる社会が築かれるのです。

しかし、人間の歴史の中で、あらゆる生きる権利を奪う最大の人権侵害は戦争です。戦争は、戦場で戦っている兵士はもちろん、周りのあらゆる人々の、人間にとつて一番大事な命(「生きる」権利の最たるもの)を奪ってしまします。命だけでなく、安全に生活する権利、教育を受ける権利などあらゆる人権を奪ってしまうのです。

今年には戦後七十年という節目を迎えています。この七十年という間、日本では一人も戦争で人を殺さないうちで来た尊い歴史を築いてきました。これは、とてもすばらしいことだと思っています。この事実が、平和憲法の下、日本の平和と繁栄を築いてきた証なのです。

これからも、戦争のない平和が続く中で、人権を大切にしながら、一人ひとりが幸せで楽しく過ごすことができる社会の実現のため、力を合わせていきましょう。

こえ 声 こえ

「ふれあい」第55号をお読みにになった読者の方より、おたよりが寄せられましたので紹介します。

◆人権週間の石垣ツムツムは、とっても素敵な企画だと思いました。あのアイデアが素晴らしいです。メッセージが書かれた石垣の上にそびえる人権城。人権週間以降も多くの人の「関心」によって、しっかりとした土台となっていくとうれしいですね。(Yさん)

◆人権作品集の短い手紙で、家族・友人への感謝の言葉が多く書かれていました。それを読んで、改めて自分は人に支えられているのだと気付きました。これからも、より一層感謝の気持ちを込めて人と接していこうと思います。(Oさん)

◆いろんな活動にふれることのない自分が「なるほど!!」と活動内容を知ることのできる資料となっています。これからも…と書いてみたものの「人権クロスワード」に熱中するくらいですが(笑)(Sさん)

1	7	10		17	20
2			15		
3		13			
	8	11		18	
4		12		19	21
5	9		16		
6		14			

■応募方法■

- 答え・住所・氏名を別紙とじこみ用紙に書いて下記までお送り下さい。
〒919-1141 美浜町郷市29-3 美浜町生涯学習センターなびあす内 人権協事務局
- め切は、平成27年8月28日(金)です。
- 正解者の中から抽選で5名の方に、図書カードをお送りします。
- なお、前号の「人権クロスワード」の正解は、「パートナー」でした。当選者は次の皆様でした。おめでとうございます。

山口 恭子さん (太田) 織田なおみさん (佐田)
 嶋田 善久さん (麻生) 竹本 祥兵さん (菅浜)
 沢田ツルエさん (竹波)

人権クロスワードパズル

二重わくの中の文字を使ってできる言葉が答えです。



ヨコのカギ

- 1: 頭に浮かんだ考え、着想のこと。
- 2: スケートを滑る場所。
- 3: 弓道やアーチェリーで狙います。
- 5: 血液が不足した時に、自他の血液で補う治療法のこと。
- 6: ○○海、○○上、○○梯、○○泥の差。
- 8: 東ヨーロッパの国。首都はキエフ。
- 12: 鼻にツノがある哺乳類。アフリカ大陸やインドなどに生息。
- 13: 「杯」「スプラトゥーン」「10本」から連想される海の生き物は?。
- 15: プリントインクのCのこと。青緑に近い青色をしています。
- 16: 足袋などの合わせ目につけた爪形の留め具のこと。
- 17: 湿地や岩石などに生え、丈の低い草状をしているもの。
- 19: 子どもの子ども。

タテのカギ

- 1: 平成27年度第1回町民人権講座の講師は「○○○理恵」さんでした。
- 7: のどの上部にあたる部分のこと。
- 9: 本州には31個あります。
- 10: 木彫りの人形のこと。
- 11: 群馬県の地名。温泉で有名。
- 13: 他人に用件をお願いすること。
- 15: イスラエルとヨルダンの間にある塩分濃度が非常に高い湖。
- 16: 紫色を帯びた深い青色のこと。
- 17: 人種差別の解消を目指し、1942年アメリカに結成された人種平等会議 (Congress of Racial Equality) のこと
- 18: 鬼の面をかぶった青年が、各家をまわる秋田県の民俗行事のこと。
- 21: 一日24時間の内、前半12時間を占めています。

世界人権宣言 (仮訳文)

第一条 すべての人間は、生まれながらにして「タテ4」であり、かつ「ヨコ14」と「タテ20」とについて平等である。

「タテ&ヨコ」のカギ

編集後記

今回新しいメンバーとともに広報誌「ふれあい」をお届けします。18,000人を超える尊い命を奪った東日本大震災からはや4年が経過しました。又今年、阪神・淡路大震災からの20年の節目でもあります。風化しつつあるといわれながら、各地で「つながり」や「きずな」をキーワードとしたまちづくりが進められています。

私たちは、年月が経つとともに、何事も忘れがちになってきます。人権に当てはめると、社会的弱者といわれる子どもや女性、高齢者、障がい者へのいじめや虐待、そしていわれ

のない部落差別等々、悪質な差別事象が横行しています。どの人権侵害に対しても、私たちは、他人事ではなく、自分の問題として行動しなければと思います。それは「人権協」の役割でもあり、「ふれあい」の取り組みであると考えます。第1回の人権講座「差別と戦争をなくすために」の有馬理恵さん、すばらしかったですね。社会に根強く残る差別と戦争。それらに対する人々の怒りと悲しみ、いのちへの思いをもう一度、自分の事として取り組んでいきたいですね。(三)